

報道機関 各位

半田市教育委員会教育長 鈴川 慶光

半田市有形文化財の指定について

下記の物件を半田市文化財保護条例第11条第1項の規定に基づき、半田市文化財として、令和元年6月21日に指定しますので、資料を提供します。

名 称	文化財の種類	所有者	所在地
半田ハリストス正教会の聖障 (イコノスタス)	有形文化財 (絵画)	半田ハリストス 正教会	半田市乙川西ノ宮町 三丁目33番地
半田ハリストス正教会 「聖イオアン・ダマスキン聖堂」	有形文化財 (建造物)	半田ハリストス 正教会	半田市乙川西ノ宮町 三丁目33番地

○概要

「半田ハリストス正教会の聖障（イコノスタス）」及び「半田ハリストス正教会『聖イオアン・ダマスキン聖堂』」について、所有者である半田ハリストス正教会から半田市文化財指定申請書の提出がありました。半田市文化財専門員会に諮問したところ、いずれも半田市指定文化財としての価値が認められるとの答申がありました。

それを受けて、5月定例教育委員会にて決定し市長協議を経て、市の指定としては31、32件目の有形文化財に指定することになりました。（市指定として絵画は3件目、建造物は6件目）

■半田ハリストス正教会の聖障（イコノスタス）

聖障（イコノスタス）とは、教会奥の至聖所と信者が礼拝する場である聖所とを仕切る壁のことで、イコンと呼ばれる聖像が飾られています。今回指定するイコノスタスは、20世紀初頭の半田を中心とする地域における信仰や文化をめぐる歴史に関する貴重な資料であるとともに、19世紀後半のロシアにおけるイコン制作や西ヨーロッパ文化の受容にかかわる当時の状況を伝える貴重な資料としても、非常に高い文化財としての価値をそなえています。

■半田ハリストス正教会「聖イオアン・ダマスキン聖堂」

明治44年（1911）6月29日起工、大正2年（1913）4月19日に落成された木造平屋建、棧瓦葺、建築面積65.09㎡の比較的小規模な建物です。ハリストス正教会の聖堂は全国的に数が少なく、本聖堂はビザンティン様式の聖堂が普及する以前の初期の名残を留める稀有な遺構であり、知多半島の歴史や宗教史を知る上で非常に重要です。また、建立当初の姿もよく残されていることなどから、本聖堂は建築史学上貴重な遺構であるとともに、文化財としての価値も極めて高いといえます。

（参考）半田市の有形文化財

絵 画 【国指定】「紙本淡彩駿牛図断簡」（S32.2.19）、「紙本著色三十六歌仙切」（S59.6.4）

【市指定】「血誓の阿弥陀如来絵像」（S41.3.23）、「絹本着色方便法身尊像」（H23.11.1）

建造物 【国指定】「旧中埜家住宅」（S51.2.3）

【市指定】「乙川八幡社本殿」（S58.4.1）、「秋葉社本殿」（S58.4.1）、「旧新美家住宅」（S62.10.30）、「雲観寺鐘楼」（H23.11.1）、「一切経蔵、八角輪蔵」（H23.11.1）